

### 第三項 魚雷關係諸教範、諸則

#### 第一目 魚雷發射術及射法ニ關スル教範、諸則

魚雷ノ發射術及射法ノ變遷發達ニ就テハ別ニ說ク所アルヲ以テ茲ニハ之等ニ關スル諸規定即チ令達、教範操式等ノ一般ヲ述ブルニ止ム我海軍ニ魚形水雷ノ採用以來此種法規ノ制定セラレシハ比較的近代ノコトニ屬シ初期ニ於テハ魚雷及關係兵器ノ取扱規則、同取扱上ノ諸注意、魚形水雷發射規則等ニ於

テ射法及發射術(法)ニ關スル事項ヲ極メテ部分的ニ含蓄セシメ或ハ軍艦職勤務令ノ一部ニ於テ艦長又ハ水雷長ノ所掌中ニ屈曲度表ヲ調整スペキコト、魚形水雷ノ縱舵ノ改正ヲ要スルトキハ之ヲ艦長ニ具申スベシ等斯術ニ關スル局部的ノ規定ヲ見タルニ過ギズ明治三十七年十二月九日内令第四百五十八號ニ依ル左記「魚形水雷發射ニ際シ遵守事項」ハ此種規準ヲ示セルモノノ噶矢ト稱スベシ

自今魚形水雷發射ニ際シテハ左記各項ヲ遵守スベシ

第一、驅逐艦及水雷艇ニ於テハ司令長官ノ特令アルニアラザレバ甲種發射ヲ行フヲ得ズ

(註) 魚形水雷發射ニ於テ射程ノ延長ヲ主トシ適宜ノ速力ヲ以テ發射スルヲ甲種發射ト稱シ速力

ヲ主トシ適宜ノ射程ヲ以テ發射スルヲ乙種發射ト稱ス

四米五ヲ以テ發射スルヲ例トスベシ

蓋シ本令達ノ發布ヲ見タルハ専ラ三十七八年戰役前半期ニ於ケル驅逐艦水雷艇ノ魚雷襲撃ノ成果ニ鑑ミタルモノニシテ本令達ノ精神ハ現行射法ニモ其ノ基礎ヲ置ケルモノナリ

三十七八年戰役終ルヤ戰役ニ依ル各種ノ教訓ノ集拾ニ専ラナリシガ水雷術ニ關シテハ明治四十年ヨリ同四十一年ニ亘り行ハレタル「水雷ニ關スル諸法規調查委員會」ノ如キ其ノ主要ナルモノニシテ同會ノ決議事項ノ一部トシテ速ニ魚雷用法上ノ規準ヲ與フベキ教則ヲ制定シ全海軍ニ普及セシムルノ急務ナ



ルヲ掲記セルヲ直接導因トシ茲ニ魚形水雷發射教範ノ制定發布ヲ見ルニ至レリ實ニ四十三年一月二十五日内令第十二號ニ依ルモノナリ本教範ハ現時ノ所謂射法ナルモノニ就テハ記載スル所僅少ニシテ主トシテ現時ノ發射法ニ詳カナルノ缺點アルモ要スルニ現行魚雷發射教範ノ基礎ヲ作シタルモノニシテ當時ニ於ケル斯術進歩ノ一般ヲ窺フニ足ルモノアリ左ニ目次ヲ摘記シ参考ニ資ス

## 一、魚形水雷發射教範目次

### 總則

### 第一部

#### 第一編 發射、進行及衝擊

##### 第一章 發射

##### 第二章 進行

原動力—浮量及釣合—速力及駛走距離—縱面進路(落角、入角、沈度、深度)

—橫面進路(曲線偏斜、直線偏斜、並行偏斜)

##### 第三章 衝擊

擊角—爆發

#### 第二編 照準ノ原理

##### 第一章 射三角

##### 第二章 照準ノ原理

##### 第三章 照準ノ修正

### 第二部

## 第一編 調整諸元ノ制定

發射原料ノ量—裝氣量—橫舵制止距離及橫舵初度—調和器彈子(速力)—距離車(駛走路離)—深度

## 第二編 試發射法

浮量試驗—橫舵制止、横舵初度ノ制定—深度測定(固定經船修正、屈曲度ノ修正量測定、並行偏斜修正量測定速力測定)

## 第三編 照準發射

### 第一章 方位盤

方位盤ノ構造—同使用法—同使用上ノ注意

### 第二章 照準ノ要領

## 第四編 各種發射

### 第一章 發射ノ種類

### 第二章 應用各種發射

淺深度發射—筏發射—防禦網貫通發射—浮泛發射

### 第三章 教練各種發射

大正六年十月内令第二百四十四號ニ依リ魚雷發射教範ヲ制定シ明治三十七年内令第四百五十八號(魚形水雷發射ニ際シ遵守方)及明治四十三年内令第十二號(魚形水雷發射教範ヲ定ム)ヲ廢止セリ

本教範ハ明治四十三年内令第十二號ニ依ル魚形水雷發射教範ノ內容ヲ改正シ進歩ノ現況ニ適應セシメ且其ノ名目ヲ「魚雷發射教範」ニ改メタルモノナリ改正要旨等次ノ如シ

一、本教範ヲ第一編第二編ニ區分シ第一編ニハ照準發射及魚雷進路ノ調節ニ關シ第二編ニハ射法ニ關シ一般ニ準據すべき事項ヲ指

示ス

五一四



二、本教範ニハ教科書の説明事項ハ努メテ之ヲ避ケ兵器ニ關スル事項舊式魚雷ノ發射ニ關スル事項ハ之ヲ削除又ハ改正セリ

### 三、射法ニ關スル事項ハ概不左記要件ヲ主眼トシテ記述ス

(4) 駆逐艦夜間襲撃ニ關スル事項ハ一艦又ハ二艦ニテ一擊必中ヲ期シ得ベキ中距離襲撃ナ程度トス

(5) 軍艦ノ敵艦隊ニ對スル魚雷攻撃ニ關スル事項ハ遠距離公算發射ヲ本旨トス

尙明治三十七年内令第四百五十八號廢止理由ニ就テハ左ノ通

一、甲種發射乙種發射ノ名稱ハ魚形水雷發射教範ヲ廢スルト共ニ之ヲ廢スルヲ可トス又駆逐艦水雷艇ニ於テ司令長官ノ特令アルニ  
アラザレバ甲種發射ヲ行フコトヲ得ズトノ規定ハ駆逐艦晝間發射ノ中距離發射ヲ許容スル現在ニ鑑ミ之ヲ廢スルヲ可トス

二、魚雷ノ深度ハ水線甲帶及吃水ノ關係上近時ノ戰艦、巡洋戰艦ニ對シテハ深度六米ヲ適度トス而シテ之等深度ノ選定ニ關スル  
項ハ發射教範ニ指示シアルヲ以テ本項ヲ廢スルヲ可トス

然ルニ本教範ノ制定發布ト相前後シテ六年式五十三糢魚雷出現シ次デ大正十一年八年式魚雷ノ一部供  
用ヲ見ルニ及ビ射法ノ進歩ハ兵器ノ發展ヲ、兵器ノ發展ハ射法ノ改善ヲ促ガシ戰技ノ計畫及實施ノ實  
戰的化ト相俟ツテ相互ノ進歩革新ヲ齎ラシ本教範ノ如キ暫ク起案改正ノ遑無キガ如キ狀況ニ在リ遂ニ  
大正十五年末ニ至リ漸ク新魚雷發射教範ノ制定頒布ヲ見ルニ至レリ之ヲ

大正六年制定ノ夫レニ比スルニ內容ノ變改著大ナルモノアリ斯術ノ進歩ヲ象徴スルニ餘リアルモノナ  
リ試ミニ左ニ內容目次等ニ關シ兩者ヲ對照掲記シ参考ニ資セントス

大正六年內令第二百四十四號魚雷發射教範內容目次對照表  
大正十五年内令第二百八十九號魚雷發射教範內容目次對照表

# HP『海軍砲術学校』公開史料

## 大正六年制定教範

### 總則

一、本教範ハ魚雷發射ニ關シ一般ニ準據スベキ事項ヲ指  
示ス

二、魚雷發射ハ周密ナル發射計畫、適切ナル發射指揮、嚴  
肅ナル發射軍紀及完全ナル兵器ノ整備トニ依リ始メテ  
良好ナル効果ヲ收メ得ルモノトス

三、各級指揮官及取扱ノ任ニ在ル者ハ本教範ニ通曉シ共ノ  
主旨ヲ體シテ之ガ活用ヲ期スルヲ要ス  
且操式ノ規定及發射法則ヲ正確ニ遵守スルヲ謂フ

### 第一編 賽準發射及魚雷進路ノ調節

#### 通則

##### 第一章 術語定義

##### 第二章 照準發射

第三章 魚雷進路ノ調節  
——深度——偏差

##### 第二編 射法 通則

##### 第一章 通則

##### 第二章 原理概說

##### 第三章 射法計畫ノ要旨並ニ適用

##### 第四章 射出狀態——射入狀態及其ノ調節——駛走狀態

##### 第五章 發射準備(魚雷及發射機ノ準備)

##### 第六章 特種發射

## 大正十五年制定教範

### 一、同上

二、三、同上  
但シ二ノ後段發射軍紀以下削除

### 第一編 發射法

#### 第一章 通則

#### 第二章 術語定義

#### 第三章 駛走能力 雷速及駛走距離——裝氣壓力

#### 第四章 進路

#### 第五章 發射準備(魚雷及發射機ノ準備)

#### 第六章 特種發射

#### 第七章 發射準備(魚雷及發射機ノ準備)

#### 第八章 射法計畫ノ要旨並ニ適用

#### 第九章 射法計畫ノ要旨並ニ適用

#### 第十章 射法計畫ノ要旨並ニ適用

#### 第十一章 射法計畫ノ要旨並ニ適用

#### 第十二章 射法計畫ノ要旨並ニ適用

#### 第十三章 射法計畫ノ要旨並ニ適用

#### 第十四章 射法計畫ノ要旨並ニ適用

### 第二編 驅逐艦對單艦射法

#### 第一章 射法原理概說

#### 第二編 射法 通則

#### 第三編 射法 原理概說

#### 第四編 射法 原理概說

#### 第五編 射法 原理概說

選定並ニ適用、計畫要素選定—射線選定)

第三編 照準發射

第一章 通則

第二章 術語定義

第三章 照準發射ノ要領

第四章 發射教練

第一章 要則

第二章 發射計畫

第三章 發射實施

附錄

一、魚雷發射教練雜則

- 射法種別—射法選定—計畫要素選定—射線選定  
第三章 軍艦對艦隊射法  
射法種別—射法選定—射線選定  
附錄  
一、魚雷發射教練雜則  
二、魚雷發射要表(別冊)